



## 不登校のための『不登校新聞』

不登校の人とその親に向けた『不登校新聞』を私たちは毎月2回、発行しています。

『不登校新聞』は「学校に行く／行かない」にこだわらず「不登校の人がどう生きていくか」という情報を発信する新聞です。新聞には毎号、当事者／経験者、そして親たちの知恵や体験談を掲載しています。当事者目線の「生きた情報発信」98年の創刊以来、目指しています。

また『不登校新聞』には、北海道から福岡まで120名の不登校当事者／経験者がボランティアで編集・執筆に関わってくれています。かくいう私も中学2年生から不登校。不登校直後は「もう自分の人生は終わりだ」と思い詰めていました。『不登校新聞』が創刊されたとき、私は16歳。私もボランティアで執筆や取材に関わらせてもらいました。また『不登校新聞』のボランティアではありませんが、私が通っていたフリースクールのメンバーといっしょに、弘前市へネプタを作りに行かせてもらったことがあります。その際は、何も知らない私たちに、骨組みから絵に至るまで本格的な「下地」を作っていただき、立派なネプタを東京へ持って帰ることができました。こうした「学校だけでは経験できないこと」を通して、私は自分の人生が開かれたような気持ちになっていきました。

10代の不登校の私たちに弘前のみなさんが誠意を尽くしていただいたように、いま現在、私もたくさんの方の不登校／ひきこもり経験者のボランティアといっしょに仕事をしています。

不登校の当事者／経験者はプロのライターではありませんが、プロのライターには書けない「不登校だからこそわかる実感」を書いてくれます。こうした「私にしかできないボランティア」ができる場が広がってほしいと私は願っています。

もし新聞にご興味があればHPに情報が掲載されているほか、**弘前市立弘前図書館でも新聞の閲覧が可能**ですのでご参照ください。

(『不登校新聞』編集長：石井志昂)



\*\*\*\*\*  
NPO法人 全国不登校新聞社  
(編集長 石井志昂)  
〒114-0021  
東京都北区岸町1-9-19  
TEL 03-5963-5526  
HP <http://www.futoko.org/>  
\*\*\*\*\*





## マザーフィールドの活動について

『特定非営利活動法人マザーフィールド』は、経済団体である弘前商工会議所会員の有志により設立された、ひとり親家庭を支援する特定非営利活動法人です。当法人は、ひとり親家庭への子育て環境の充実・就労対策など行政とは異なる独自の支援により、地域の将来を担う子どもたちが、未来に明るい夢を持ち生活できる『子育てしやすい街・弘前』の実現を目指しており、現在、子育て・就労支援・資格取得支援を柱に活動しております。

昨年12月からは、新たに基金事業を開始し、子育てと仕事を頑張るひとり親家庭の応援をしております。設立当初から毎週水曜日に学習会を開催し、弘前大学のボランティアサークルの学生が講師となり、子ども達に勉強を教えております。学習会での子ども達は、勉強をしたり、友達とおしゃべりをしたり、学生に悩みを相談したり、それぞれやりたいことをしており、子ども達にとっては「自分の居場所」という存在になっております。また、勉強の合い間にボランティアによる食事会が設けられ、美味しい手料理を提供していただくなど、たくさんのボランティアに支えられ日々活動しております。地域住民、行政、関係機関との連携により、繋がる・寄り添う・助け合う支援を心がけております。

マザーフィールドでは勉強だけに限らず、社会を生きるために必要な力である「生きる力」＝知・得・体をバランス良く育むことを目指し、今後もひとり親家庭の支援に力を注いでいきたいと思っております。

工藤 真



## ボランティア交流まつりに参加して

2月11日(日)にヒロロで行われた第7回ボランティア交流まつりで、発表部門の最後に歌わせていただき感謝&感謝でした。

元々は東日本大震災の後、歌ではなく別のボランティアをしようと岩手県釜石市の被災地に行ったのですが、ふとしたことがきっかけで歌った「古い讃美歌」に被災者の方が涙を流してくださり、それ以後「歌のボランティア」として活動するようになりました。童謡や新沢としひこさんの子どもの歌、そして古い讃美歌やゴスペルを、被災地・病院・グループホームなどに届けてきました。

どちらかというと地味なグループで、ひっそりと活動を続けてきたのですが、今回、市民ボランティア交流まつりの場で歌うことができ感謝でした。聞いてくださったお一人お一人の温かい笑顔に励まされました。これからも歌を届けていきます。応援してください。

ザ・エクレシア：伊丹秀子



## 豆知識

ビルクリーニング技能士の豊田章吾さんに聞いた、掃除に関するあれこれを4回にわたってお送りしたいと思います。

◎お掃除をする意味って？

普段、何となくしているお掃除ですが、それには次のような効果があります。

1・健康的な生活ができます。

☆アレルギーやばい菌から守ります。

2・精神的な安らぎが得られます。

☆自分ばかりでなく、周りの人も穏やかな気持ちで生活できます。

3・建材の延命につながります。

☆不要な出費を抑えることができます。

特に意識をすること(必要)はありませんが、生活の中で大事なこともかもしれません。

次回は「汚れて？」です。



## 編集後記

ボランティア交流まつりで、ボランティアとして参加していた方に「ふくろう通心見てますよ」と言われ、発行のたび「読んでくれる人が居るのか」と気になっていた自分はその言葉が嬉しく、今後がんばろうという気持ちになりました。

また『わた帽子の会』の木村さん(第59号掲載)が若い男性の方が木村さん自身の作った帽子をかぶり会場を歩いている姿を見て、とても喜ばれていた姿が印象的でした。



<製作>市民ボランティアスタッフ  
<製作協力>弘前市ボランティア支援センター  
〒036-8355 弘前市大字元寺町1-13 弘前市民参画センター内  
TEL:38-5595 FAX:36-1822  
HP: www.city.hirosaki.aomori.jp/volunteershien/  
情報紙についての意見・感想をお待ちしております。